

26PB-am295

事前実習における調剤業務シミュレーションの学習効果の検証

○小清水 治太¹, 小川 潤子¹, 小川 ゆかり¹, 小島 可寿子¹, 田島 純一¹, 西牟田 章戸¹, 益戸 智香子¹, 吉井 智子¹, 加藤 眞由美^{1,2}, 加村 潤^{1,3}, 田村 祐輔^{1,4}, 宮川 昌和^{1,5}, 三原 潔¹, 小野 秀樹¹(¹武蔵野大薬, ²つむぎ薬局, ³日本調剤, ⁴しもれん2丁目薬局 ⁵エコ薬局)

【目的】現行の実務実習モデル・コアカリキュラムには、事前学習のまとめとして「病院実務実習、薬局実務実習に先立って大学内で行った事前学習の効果を高めるために、調剤および服薬指導などの薬剤師職務を総合的に実習する」ことが掲げられている。一方、改訂薬学教育モデル・コアカリキュラムには、薬学臨床の基礎に、事前学習の到達目標として「病院・薬局における薬剤師業務全体の流れを概説できる」がある。その学習方法として、薬学実務実習に関するガイドラインでは、病院、薬局を利用される患者を想定し「患者の動きと薬剤師業務の関連を図示し、説明する」と例示されているが、一連の業務のシミュレーションの実施までは言及されていない。これらを踏まえ、改訂薬学教育モデル・コアカリキュラムによる事前学習の実施に備え、より効果的な学習方略の構築に向けて、本学で事前実習の後半に実施している薬局における調剤業務シミュレーションについて、その学習効果を検証した。

【方法】シミュレーションは4年次の全学生を対象とし20分間で処方箋受付から薬剤交付までを1学生につき3回実施した。学生個々に教員1名につき各業務の技能・態度の修得度と一連の業務過程の連続的な遂行度について評価した。2回目までは教員が実施中、実施後に助言、フィードバックを行い、3回目は助言等なしに実施し、シミュレーションテストとして成績に反映させた。

【結果および考察】約80%の学生が一連の過程を自力で遂行できると評価された。また、各学生の試験の所要時間は計測していないが、多くの学生が薬剤交付まで実施できた。実習施設の状況に応じ、自身の実力を踏まえて各々の業務の時間感覚を身に着ける意味でもシミュレーションの実施は有効であると考えている。